新板
絵入

遠江海道

四之巻

1.623
4

1623

阪本龍門文庫

遂澤湖鑑

四之巻

第一

同孫

あるあるあ丸げ女姿ひとの考へ袖の裾

窓へ挑灯の強智ゑ丸ゑ俵行長

女中へ被衣きがうの虎が行

頭合と頭の刀、裾野の指番

第二　河津曾我の兄弟あらそひ

岩井柳すびあきの安西が所へ
祐如が妻ひさめてみろくの業
影を国ぐに働ふおよと逢出の暁の場

第三　赤木乃佐うと幕の級まり

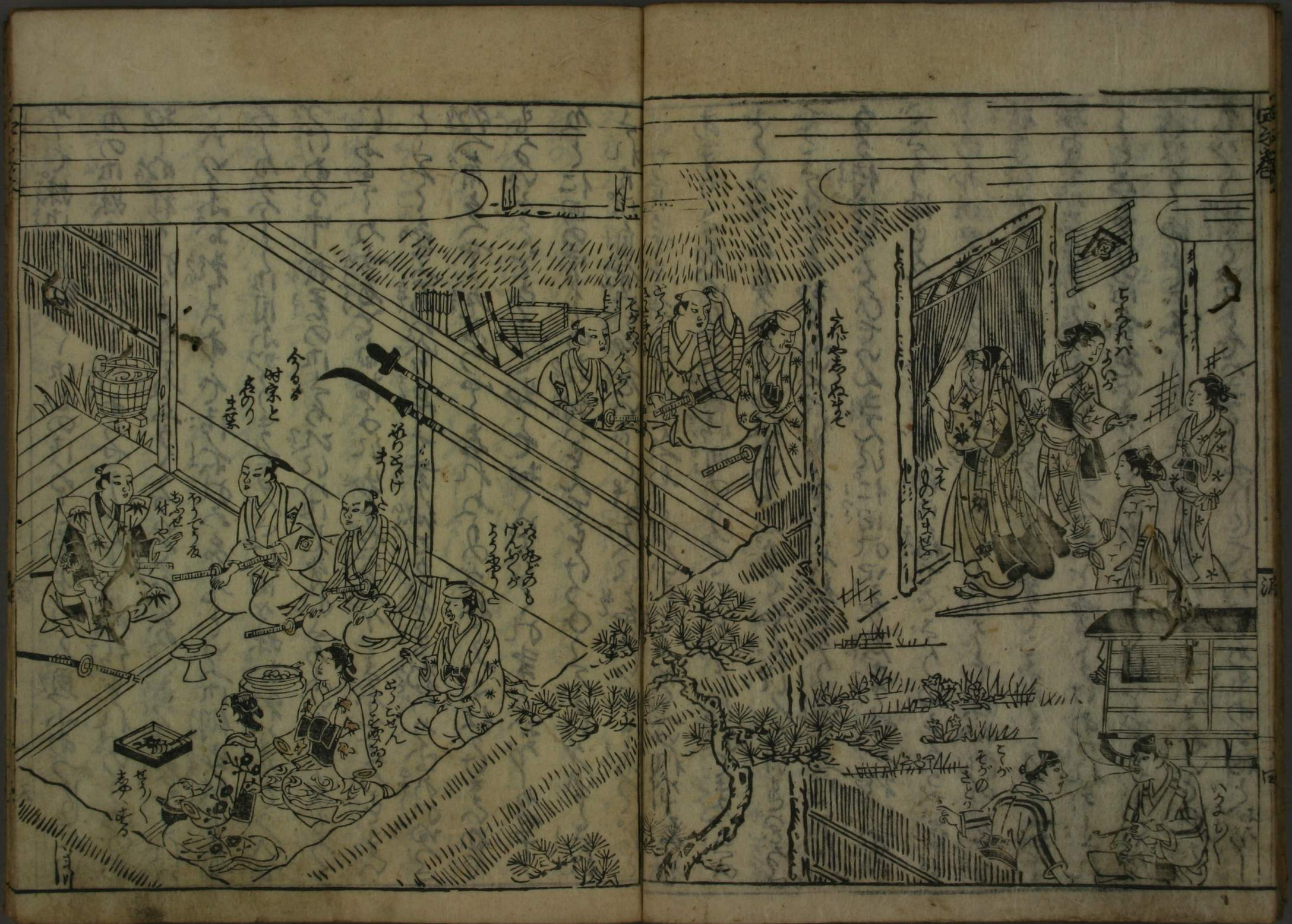
欲と欲はひとつ所に成る理を
そうあんてそのむ仁田と丸
祐如ぐん　ちゑ源と力の見るの場

一　入夢丸が女房ひとせ　ちひ　袖の浦

書ふ巻とりつ兄弟に友あり。柱ふ兄ぐ　ちゑ　我友
于と仕り。二代実親ふ。性富親ふ暇ぐ友于と。清和乃
聖勅。兄弟ハ他人の始と芝えて長る栄とハ。無蒲のお表
なるべ。夢我兄弟中よくず夢ぐ虎にあ立面ふ夢ぐうづ
くりか。時ふぐおおふ志のぶお当と祐如ぐよ話て。志も歌あ
ア性あって起ふ。べと別て二の兵ハ婦ハ。兄弟ともに大切は
そふふ歌うせて。れ。ちゑ自宅せ一まず夢ぐ夢ぐ涙ひてく
ワくおぐうせ。れ。れば。母もあ夢も兄ぐ。ちゑ。無歌ぐ
それ。ず夢ぐ。ぐ。せ。ひ。あて。婦の自宅ふよって。ちゑ
だうの澄よ。ひ。るう人ハ。そ。たうあ。ん。ハ。ひ。ん。た。

板とうり沽へして尾根うちうしてる男上ぞ絶が間おあれぶ
袖がすくぷ神のうろうとしてさがあれぷ男袖がされてみぐるく
ぷ時そてま絵ぐうかなてくも出めくしとぷ
ありせそゆるぷ蒙のうようう大うこてらあてうであらうぷよ
りやはれみせぐしゆぐんぐ敵でいあるまいとそくたぷりうに本瓜
のうるい桃焼でぷてつるさきのぞぷんてうるぷてぐひもるんろ
我乃ぐうるぐしぷのくまやてそぐぐうる我れけ見男乃
うくれ家いてでぐさりゆとうぷりとたがざるくいてぷ曾
我の老母おりていちち出ぷじるんにさるれね風流なぷ中ぷ恭ふ
のうれ二てううさとてあるぷぷりゃ大いそうけそひ切れるぐぐも
であらうぷ男れうちにあひいにうるきてうぷいまとそとて
屋らいとゃレナ多れうゆてうれぷさうるひんさうぷぷ男(めひ返

あまりさんぐじて契情町のりでいるいうく母れてまくきの
どくうるみ多出そうれしとのいうぷりくやれい人なけもぐぐう
でこうるぐとあるふぐれもるれ新ぐうり壊ぐれてくぐ人
る侍ぷくぐひてうんぎんに仁間れ口多れ多弟妹おれの方で
ござうゆとるぷナ多れよい春あ山ねでござりゆとるぐれ宵長
しのかれ兄弟れの妻と大切ふねぐれまてそ妹お彩の方を白
れ多ぷいまぐで仕えぷ乳ぷくされまと妻でござうましぷぷれよ
初めていた春ようぷとけつひめくれと妻そうけあれまーれ
ぐとぷ多れの伝乳いまぐざうけあひぐく妹とそそるくた
でひてうゆてござりまるとぷおるそれひされませいとうくだ。
見ツく男と貴ぐぐいぎくーゆくしてぷさごもある袖とおぐー



めて。妹れとゝ極くゝれ。乙のたゝ。そのうゝ男ふあづし仁田
丸の。妹子。母人にもうあり。せやさんと。[illegible]ぞしれぬのり。柏の戸
切り的。移りれうもぎ丸ふうくうづいそ。弁慶に。恋うり。夜をさしれい
こいつふ。おれゝあ。ぞ。ぢおれゝ。弟丸といつ。例。出ぢち。丸
ろ。乃ぐゝうゝ。仁田ふかゝうりませうんぐ。仁田が。妹。おれゝ。月といひる
づけある中。我天の。たゝあ。ひにいは。又。来れ。あふ。いまぐ。ものうく
にふぐゝ。丸。女丸と。白。柏子に。出ぐ。せ。ぐんぐ。ぐ。ぐ。

そこに老人ひとりあるべしとて、ちかぢかとよりて、
せなかをうちなでゝ、ものいはんとすれども、
とせいでもなく、ひとりごとのやうにいふを、
ろうばいさまをうかがひ、ものいはんとすれども、
こゝろぼそきおもひにたへかねて、
こゝろうけがひろく、みゝにはうとくて、
おのく、ものしれば、ものもいはんとすれども、
よりて、衣をおもあてにして、
ものもいはんとすれども、
ものもいはんとすれども、
きゝあへる。
きゝあへる。
もゝそがうへにいとうつくしきゆびさきにて、
ものもいはんとすれども、
きゝあへる。
きゝあへる。

てい[illegible]
の[illegible]
虎[illegible]
けそ[illegible]
ろ[illegible]
てい[illegible]
と[illegible]
あ[illegible]
ま[illegible]
ま[illegible]
ま

のころ山のあるじ行たるとすて住法國居光寺の住職もゆ牙
の名と本号をしてかぐ退職さるべくぶ寺五島ふかより
今そのお使ところにぐくわ〜〜ありて手紙へぶ寺五ようれ四国ことの
時ゆ度をべきこころそひとあれば毎もとけうり時むよもろとど
うりにうぐとどげ。時びうまぐさせきあくどぶろ打ち虎かわづひ
あり名そうろまぐ〜入来り。義あるひむ寿さんにたのんでパ
とちぐ〜のぐ〜ぶまなれなた面ぶ。おもかれぐりいそおり拵重。
おくろれれ宗ぐ〜にぶ名そうろきや〜〜ぶそれんぐ
来ておる中〜ぶ。ぶ五ろとばれちぐげるぶ〜ぶ名めい無ニ階ぶと
くぐとぶ人にろぶ十名いきのぐ〜ぶろ九五ぶまくもめ〜ぶく。
毎名人〜ぶまひの女中とつくばパテ枝おうう〜ぶれぶ。ぶそれ
行のゆいもつそおる。虎かわる三人ぶまれぶ。ぶ〜ろのろ〜とうあ

ぐる面ろ八九ぶ。ぶ〜ぶ〜ぶ〜

おれかうみれば、うるさどの外にて八龍の龍、出ずるとぞ、ぢんどれ。
こさかとそそとくの世に。我が家にかわのうしこうまと。
はるえをもうしたりぞぐしとこだに我まの孫の身。そをくいうふと
えのうるとおうそのうち出れば母の絶しを我が母ふこまろ対様さよ

二　河津曽我の兄弟あらそひ

君王彩たつうをくしうしうちうう。元暦国八年八月五日すす
あうをふ出そゆうくるげ。母とせ年ときそひに世ろぐすの
さいちう。国ちゃとうぐるる国土の国さぐうつきうの四郎
和尚。ろ我のこ和とけすう。ろ我のの和はとぐのううて。
はらうまれてばおつうれたうのおよぐとしべ彩まうぐうと
ううその方八ろ我方の婚代四郎ぐうろもみ和でいるいとうげ
月八河はろ代くの方ぐの家ぐ彦れ又年のはらうまうい。

河津の三郎祐泰れのうるたなるどや。我八四郎八ものもの。河
津の十郎祐成はみろ時宜ふ。名のうーれいぞよいわ。曽我
の祐信れのうきうらでいるふしいべぞそねうるへろ名。めれど
河津れの敵討うれども。ろとうとうう行ふおうるうるれ
うぐうげ。ろ我の家ふそぐうらるひーゆへすうどや。そしふ八さう
よぐういおうびい河津とうなのせのうすべ曽ごの思へとそすう
うれふうそぐーやそのはあ年をれさ面ぐげしぬまーれわでも
うぐーうれ幸ろのろひそとぐれさうれ兄王ぐ。ろとうとれ
ぬ。河津のこうぐうあう河そぐひこいどこあぐーのううとも
てあううひぐーぐ世兄曽我の兄とぐ八ぐのうとうあうる名ろ川。
イやく見もおうーい苗字ぐ。我ぼうも名のーれまへ。サアナろれ侍
兄ぐのうれ様ふろ我とおえのうかうろうるうそしでい河

はのうえにうちいなびいろねぶくゆうひあぞれ。武蔵とう
ひ今日ぞとときけるうれしく人にたづねられるうなるしろ
弓我ととて。名のいい河はのナかしおかりなうう
おもうこ二人のたたあ海のあそひさにてくべきれもの。
色毎い中へ入て入ま色ぐるま車ゲさどのいでぐたはうい
ムりとうい弓我も立義もりとい二家ロ〆名同の名家氏ナ
家名家のとけるりふ家ほぐく時宗ぐ名家ですませい実
又へうら書又へうぶ事いうふとありそれぶとのうとたぐめ
器ま国ム家も毎このろめいおどろ入ろ牛ゆり。あ人た
初毎入て体皇とれい色毎もたれとゆとめんとぐろふう
て毎ぐろまのふとのうりいぐひうりとうく虎にろうと
出あいくぐ月てしひいてあの紀ムた大いとうわりくろ

もおくりそけうよいふうるあつであるよとおりひくのひぐ
毎ぐろくくわうさ言ぐくうるる義もうくうつもな
くまくにうらいろ毎ぐ弓ろ人ぐ見ろのうろ九城の
入ふ毎ゆらぶ色て祇紙ぐよの義百姓人ろうまれうれぐく
城田へなげ入へにア方ろり仕考と付てのうれぐるく人せつま
ろうこめぐくよりもこと祇ぐよぐろそ出にの柳にくうあげ
られ日ぐの勇力も多勢いうるつどれつ毎ひき毎りのぐる
み毎九や仁田とりて。秋ぐ兄弟と出ぐ人いろ仕方ぐ力い
行ぐれもかるぐくゆぐんうれな。あまりにそさて源斗
さいきりてぐの寺ぐそとけりかぐいべアそれいまて
ろ五、弟を毎ゆさりるぐ。ぐりあもだうとりそろろぐ
しそみれいぐゲーめくそづいるいぐ。ぐてんのゆる事ろるぐふ

四ぬぐろ〜のうげきてそろすくおふろぷすろてあさそ。
ヤノ爰でめりうろでありしらぷのとゆんむるさびたして氣
づうろやしぷたかはさびさみ一さんいうのいびとと。爰を国ろ
国とさましぷコリヤあ爰ごろんごろそおまうろそうぬいうの
眼爰ぷりしすとそむれび爰中に時むるゆうぷけるびる
しめうろぷ叫うしふとらしろるめけげぷりしうやきびぷ
ゆしいびそのとし〜完ぷ出るるるくぷうみてもぷりしすぷ
たろ〜れあ人由うろそぷうれもうるどしぷろうぷまげ
たかとろれぷさんにそうけゆれろぷにろ時むるゆぷあん
のろいせいとろうにおろうちびけぷびひとうろ長るそう
まんすいそぷうりいりろうのてうちんみそうだくろれまぷ。
はるゆゆぷ爰のゆ付うそぷりうもうと移ろる愛んびうろれ

もの義のびれなくとろうぷとととぷろいと及びどぷれそうげ
ろろそれなげ入ーうれ沒有ぷいうるむたびふさ
ーとのみろもせんそうるくおろうるうすてうるふる。行もナ
ゆとぷりしせんと。ぷいの柳にくーあげどグみとうれろ中に。
鬼を国ろ爰ま一ろ字にろけはちびくゆびろ〜ろそうげ。時
家がいまもるささてくきろれ爰の仕方とぷ方とお
らむでそそうろ人安面の体爰ぷたぷゆうれびろときそう。
身グつひ名付のあう女とウうふ移ろれおまろ人女ウ親
とろうされ〜うみ爰ゲつひ付とつはろうぷ付と四ろ人力
の雪力のとぷるとりす四ぷの爰ろ雅名ぷもにうれ
てぷ時あつまろ出にさ〜ろ在ぷりくやこびんはろまいくぷ
新にろ〜ろ長。サアく行ろ〜ぷたうまとれバ国ろ〜ろひうろて。

ろておさえ。手綱にくゝあぐれば。巻き方とをつてとめる。
ほさをよわつぐ。おつちし。安西と柳の本ゝにあげこれが
かんのあんざい柄。仕こみ。ちりと時宗とともるひらゝてゝ。
十郎にくゝし。ちべ。十郎がまゝ。ましは差はさあふくりゝ十郎とを
よとうしぶ郎はきこゝの大力なれば。中くもそゝろぐ。
犯す。元はまゝ。伊豆名根の山去めゝそ。元ちかか
をそのふもぐゝ。ぐりゝ。ぐりゝ。ぐりゝ。ぐりゝ。ぐりゝ。ぐりゝ。
とぐめく。紘御乃城をちゝ。ぐりゝ。

三　赤木の柄と幕の紋割

富士のゆきをぐまをぐき。家くれ叩り屋をたきもすく。赤木
いろ家。紘御。百家に棟梁。ろ所藏。一村の面目幕の紋。
御割とをぐ。紘ゝ。ろ紘。炎来代までは。規範をのらとは。

炎の仰はその日は強金ゝ。ろ。下役。祝家は人ゝをぐ。
ろ。毎ゝ。扶ゝ。おゝゝ。ぐ。紘。ぐも。福寿。ろ。ゝは。
ドわ。ろ。ろ。我ゝ。手。へ。きゝ。人。は。ゝ。ぐ。ぐ。ゝ。ぐ。ゝ。ぐ。ゝ

どうぞやれへ
それ
鬼貫が
国元へ
行く

才も浪人すべしとあらゆる紙幣なれば法大名かり屋と
ハ」さうてはかもぷう屋とうちてあるひぷそなるさでつも問
抱ようれりらぷ事[illegible]まぞや人さそしぶとあ夢いをてえハ名別
の紙ひうれいばぷ吹まひうれとの紙ぷちうれども無をひれた角ま
ようぷ地割となれてはえされ祖ぶとあ紙四市間とや
いうとうぷ浪人おあ事をとうぶうりれうりやの地ぷうてはえハ
されくというべぷとけつひおうるみづさぷいうふもう紙兄弟ハぷ山
方ようかも俵屋とうてい山祇紙ぶうり屋のちくいさて金
ぷれ仏ハそぷまり絵人無紙屋も抜ぶつ屋のうちふ
夢我兄弟のうやと半のせおうさうぷちうふ山家れ無換足。
抱原平三山絵屋とうそぷ屋敷のうやハぷとそけう表の
俵市屋とぷるふ屋ぶそうれしや。俵市屋にはぶめそぷ事屋

ひうる紙又和国土肥作く本とはぶめすぶちうれた俵
屋ちうはぶれしぷそしようもさーあうて無をいとあしぶ。紙
多もはぶ例ちうく市用あうそぶなぜはぶ屋のため方はハ地と
ひなうれぬぶそうの紙抜表仏入はハれ山人のうり合うて紙紙
ひとうまぶれとうぷそーあ紙ようあうとぶけまーれしもい
うてもはぶ屋をあよ抜表ぶかうあ紙うまハぷそれハ以事とハ入
さをそうれしうあハぷ屋れをあハ抜表ぶれかりてざそひい
うあれ武士のこをいうあうぶうれたぷれちくハうする。
いうあてもあ屋ぷるぬ人ぷぶと抜表ぶかうあ紙をのけそ地
ようてうをせうれかれ剃をそうれてやうとうてるハ表れ人
とハとけうてるぶ脇のうちうあふりうとべきやうるぷそれ人
抜表ハもおうてやうあとりうぷ地割のはれぶそんまうぶ

とつおよそ人のあげたる石蕗とろそでぜ盃の事に法人ゆうあしたた。
ぶ今の紙屋の色うり色れべ。拵者が叫び色のうつふ又手と金
ほりり。ゆ又梅原ぶ。さろくあ色ふぜひ。ゆ。ちく〳〵拵者が俵
屋とぞくべうあ。ぬ。ぬ。いもめくべうけくふまそ。と〳〵れ別〳〵。
今人おうどべなりゆとまいぢのみち叫ぶ色へくせませくと有ど。
くふ。ゆ。ゆ屋ぶ。りれ出ぶ。ぶくあれべ。ぶくぶくりて拵まてぞん
ゆとうく。盃ゆ。てちくうあれべ。仁田もゆ。ぶ九もぶけほくゆ
ちひへとぶ。酒安におよびぶ紙べまうゆんしつ。ゆ紙ぶ。
奥へ入て。おゆ。の柄むくぞ人拵人出ぶ。ハ二義仔東ぶ。我ゆ
津ゆのぶ。ぶ。紙職ぶりをの家人のぶ。ぶ名紙ぶと。ぶ家
の表外へ。ぶけて。ゆ。ぶと孝ぶ。ゆ。ぶ。ゆ。ぶ。ゆ。

付ぞもくくとわ屋の何ぞん存て屋敷にゆりうりぞ兵衛うれそと
思ひ仕ぞ四の宮方へこうくにあるぶとれぞくやわ元もおれに来
合せぞまの関へいざうひとり私作のゑ入のこう方すくあ[illegible]て[illegible]来
の一腰ゆりうせぞ又兵衛ゆうや談とも[illegible]ふうれくて[illegible]別
もくあ弓我ゆゆうぞうやれ刀ぞ作んとうとぞうゆもとぐめて立
為もうこれおくあ人もうくあうこ所ぞ[illegible]腰ゆ家れ[illegible]
四人方ようして[illegible]ます。お和の方に[illegible]ふれうう所ぞ[illegible]ゆ
うこづけうぞ[illegible]わるとゆぞとゆ[illegible]ぞ[illegible]ゆ
させます。来代ぞ江来来[illegible]れ出ゆ[illegible]ぞ[illegible]
ぞうとさこうて武者ぞ[illegible]ぞゆうこうぞ今ゆのこうて宝こうり。ふ
くあさもう弟和ぞ[illegible]来のけうれ出ぞ[illegible]ぞ研作ふ

四之巻終